

科目（講座名）	現代文B	3単位	学校必履修
教科書	精選現代文B（大修館書店）		
副教材	新国語便覧（第一学習社） 力をつける現代文〈ステップ2〉（数研出版）常用漢字クリア四訂版（尚文出版）		

学習の目標

- ・近代以降の文章から、語彙力・論理的思考力、表現力を養う。
- ・日本文化に深く関心をもち、広い視野を身に付ける。
- ・読書を通して自分と会話ができる豊かな人間性の育成に努める。
- ・作文、短歌・俳句の鑑賞・創作を通じ、言葉に敏感になる。

授業内容

- ・論理的な文章を通して、近代以降の思想の流れを捉え、論理的に整理しながら読解する力や、思考力を養う。
- ・小説において、時代背景を意識しながら、登場人物の心情や行動を読み取る。また、他者との価値観の違いに目を向けさせる。グループ学習やその発表を効果的にとりいれる。
- ・漢字学習などを通じて、基本的な語句を正しく使えるようになる。
- ・作文、短歌・俳句の鑑賞・創作を折に触れて行う。

学習方法

- ・予習で、分からない語句の意味や読みを調べ、作品の概略をとらえておく。
- ・段落の構成を意識して読解を進め、論旨を正確に捉える。
- ・授業の内容をまとめたノートを作り、復習する。
- ・小説の感想を文章にまとめる。

評価の観点

関心・意欲・態度	国語や言語文化に対する関心を深め、国語を進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合う。調べ学習に積極的に取り組む。
話す・聞く能力	自分の考えを論理的に話し、的確に聞き取る。発表において、聞き手にわかりやすく発表したり、人の発表を聞いて的確に整理したりできる。
書く能力	目的に応じ、自分の考えをわかりやすく筋道を立てて整理できる。また、適切に文章に書き、ノートや作文にまとめることができる。
読む能力	先入観を持たずに様々な分野の文章を的確に読み取り、理解することができる。評論文において論理的に整理し、的確に要約することができる。
知識・理解	表現と理解に役立つための音声、文法、表記、語句、語彙、漢字等を理解し、知識を身に付ける。漢字検定の三級から二級程度の力を身につける。

評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。漢字に関しては、到達度を重要視する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4		評論	・ミロのヴィーナス	・評論の基本構造を理解する。
	5		小説	・美神 (中間考査)	・対比、逆説、比喩などの表現技法を理解し、筆者の美についての発想をとらえる。
			小説	・山月記	・小説の構成、登場人物の性格、心理等に着目し、細部の表現をも深く理解し味わう力を養う。
	6		詩	・永訣の朝	・親しい者との死別の悲しみの詩をあじわい、詩歌の技法、表現の特色について学ぶ。
	7			(期末考査)	・考査後、問題集にて評論文の読解演習等
2	9		小説	・山椒魚	・比喩表現などの描写を正しく読み取り、登場人物の行動や心理の変化を正確に把握する。寓話的な話のおもしろさを味わい、そこに内包された人生の主題に目を向けていく。
	10			(中間考査)	
	11		評論	・「である」ことと「する」こと	・より高度な内容をもつ評論文に取り組み、論理的構造に着目して、より抽象的な文章を読解する力をつけるとともに、自分の意見を持つ。
	12			(期末考査)	・キーワードの抜き出しと、意味段落ごとの要約を通し、論理的に文章を解析する力を養う。
					・考査後、問題集にて評論文の読解演習等
3	1		小説	・こころ	・本格的な長編の小説の読解を行う。登場人物の生き方を主体的に捉えながら、主題について深く考え、人間の生き方や人間観、他者の存在、あわせて、日本近代の抱える問題に対する認識を深める。
	2				
	3			(学年末考査)	

科目（講座名）	古 典 B	3 単 位	必修選択
教科書	精選古典 B 古文編・漢文編（東京書籍）		
副教材	体系古典文法（数研出版） 読解を大切にする体系古典文法準拠ノート（数研出版） わかる・読める・解ける 古文単語 330（いわずな書店） カラー版新国語便覧（第一学習者） 漢文必携（桐原書店） 改訂版よむナビ古典②必修編（いわずな書店）		

学習の目標

<ul style="list-style-type: none"> ・ 古典としての古文と漢文を読む能力を養う。 ・ 古典文学を読むことによって、ものの見方、感じ方、考え方を広くする。 ・ 古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。
--

授業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法および文の構造を理解する。 ・ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。 ・ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。 ・ 古典を読んで、日本文化の特質や、日本文化と中国文化の関係について考えること。

学習方法

<ul style="list-style-type: none"> ・ 予習で、文章をノートに写し、分からない語句の意味や読みを調べておく。 ・ 文章の構成を意識して読解を進め、内容を大づかみにする。 ・ 予習をもとに、授業の内容を自分でまとめたノートを作り、復習する。

評価の観点

関心・意欲・態度	古典や日本文化、中国文化に対する関心を深め、進んで表現したり理解したりするとともに、伝え合おうとしている。
話す・聞く能力	作品に対する自分の考えをまとめたり深めたりして、相手や目的に応じ、筋道を立てて話したり的確に聞き取ることができる。
書く能力	古典を読んで関心を持ったことなどについて調べ、文章にまとめることができる。
読む能力	文章や作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえることができる。
知識・理解	古典に表れた思想や感情の特徴や、表現上の特色を理解することができる。また、辞書を用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照できる。

評価方法

定期考査、課題テスト、提出物、小テスト、出席状況・学習態度などをもとに総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	2 4	説話	宇治拾遺物語 古今著聞集	・説話の構成や展開に即し内容をとらえる。説話の世界を読み味わう。文法では、用言の活用について復習させる。
	5		随筆	枕草子 (中間考査)	・随筆の特徴を確認しながら読解する。 ・女流日記文学の概要について学び、作者について理解する。作者の物語への憧れ、平安人の仏教への傾斜を知る。文法では、助動詞について整理・確認させる。
	6		日記	更級日記	
	7		随筆	方丈記 (期末考査)	・作者の自然観や人生観に触れ、古人の優れた感性を知る。無常観の要因となった章を扱い、鎌倉時代の人々の心情に触れさせる。
2	9	2 6	物語	大鏡	・歴史物語の特色を知る。登場人物の行動や心情をとらえ、人物や事件に対する作者の思いを考える。文法では、格助詞・接続助詞の理解を深める。
	10		漢文	故事・中国の詩(近体詩) (中間考査)	・詩の形式、内容を正確に読み取り、中国の人の感性や考え方を理解する。訓読の仕方、正確な書き下し文を復習する。文法的なこととしては、副動詞・係助詞・終助詞・間投助詞などを復習する。
	11		史記		
	12			項羽 (期末考査)	・中国の史伝を読み、古代の人のものの見方、考え方を理解する。
3	1	2 0	物語	源氏物語	・物語の最高峰としての特色を味わい、登場人物の行動や心情をとらえる。
	2		和歌	万葉秀歌 王朝秀歌	・『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』それぞれの独自の歌風を比較して把握する。和歌に詠われた世界を味わう。
	3		諸家の思想	論語・孟子・荀子・老子・ 莊子・韓非子 (学年末考査)	・中国古代の思想を理解し、人間の生き方、あり方についての考えを深くする。

令和2年度第2学年 年間授業計画

科目（講座名）	日本史 A	2単位	選択必修
教科書 副教材	「改訂版日本史 A」（山川出版社）		

学習の目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界的視野に立ち日本を取り巻く国際環境などに関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる人間（主権者）としての資質を養う。また、ここ100年ほどの間に日本がどんな道のりを歩んできたのかを理解することと、世界の民族紛争などの背景を歴史の観点から理解し考察する力を身に付ける。

授業内容

「序章 近世社会の動揺と近代への胎動」から「第8章 現代の世界と日本」を扱う。

学習方法

講義形式と調べ学習。必要に応じて、図表や補助資料・プリントを使う。

評価の観点

関心・意欲・態度	現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会、を形成していく当事者としての自覚を持って考える態度を身に付けているか。
思考・判断	近現代の日本の歴史の展開から課題を見出し、世界の歴史や国際環境等と関連付けて、実証的、多角的、多面的に考察しているか。
資料活用の技能	近現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有効な情報を適切に選択することができるか。
知識・理解	近現代の基本的な歴史的な事象に関する知識を身につけ、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。

評価方法

定期考査を基本に、ノート・課題等の提出物により、平常点を加味する。そしてこれらをもとに年間の成績を総合的に判断し評価を行う。

学期	月	配当時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	4	6	序章 近世社会の動揺と近代への胎動 第1章 開国と明治維新 第2章 立憲国家の成立	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事から現代社会の課題について考える。この国で暮らすものとして当然知っているべき「この日」について学ぶ。 ・19世紀の世界、列強とアジア、鎖国体制の動揺と海外情報 ・新しい国家の形成、新政の始まり、地租改正と殖産興業、文明開化と啓蒙思想 ・自由民権運動、松方財政、大日本帝国憲法 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞記事などから現代社会の課題を提示し、その課題が生じた歴史的な経緯を調べさせる。 ○原始～江戸時代中期の歴史の推移について振り返らせる。 ○19世紀の日本の動向を、産業革命などの世界の出来事と関連させながら理解させる。 ○天皇を中心とする統一的な国家の形成を廃藩置県、地租改正などに関連させて理解させる。 ○自由民権運動や大日本国憲法制定までの経緯を調べさせる。
	5	7			
	6	6			
	7	5			
2	9	6	第3章 第一次世界大戦と日本 第4章 昭和の恐慌と満州事変 第5章 第二次世界大戦と日本 第6章 占領下の日本	<ul style="list-style-type: none"> ・日清戦争と朝鮮、産業革命の時代、近代文化、日露戦争、資本主義の発展、桂園時代と社会運動 ・第一次世界大戦と中国侵略、パリ講和会議と東アジアの独立運動、大戦景気、大正デモクラシー ・社会不安と昭和恐慌、軍部の台頭、二・二六事件、日中戦争、大東亜戦争、戦時体制と思想・文化の統制 ・敗戦と占領、冷戦の始まり 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本、清、朝鮮の歴史的関係を確認させ、日清戦争の主な戦場が朝鮮半島から遼東半島・山東半島であったことに気づかせる。 ○日本が中国への侵略を進めた経緯を説明する。社会運動が、経済の動向やデモクラシーの風潮の影響を受けながら組織的に行われたことを理解させる。 ○長く続く不況と昭和恐慌の関連を理解させ、満州事変や二・二六事件などの歴史的な事象の内容と経緯を説明する。 ○写真や映像資料を用いて、沖縄戦等における住民の被害について考えをまとめさせる。 ○終戦にいたるまでの日本、アメリカ、ソ連等の動向を取り上げる。
	10	8			
	11	8			
	12	6			
3	1	6	第7章 経済繁栄と保守長期政権	<ul style="list-style-type: none"> ・55年体制、高度経済成長、経済成長のひずみ 	<ul style="list-style-type: none"> ○高度経済成長が実現したのはなぜか、国内の要因と国際的な要因から考察させる。
	2	6	第8章 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済秩序の転換、日本経済の回復と行政改革、経済大国化と大衆文化 	<ul style="list-style-type: none"> ○IMF 体制の崩壊と石油危機は世界の経済に深刻な影響を与えたことを調べまとめさせる。
	3	6		<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦後の世界と日本、バブル経済の崩壊 	<ul style="list-style-type: none"> ○1990年代以降の内閣の多くが短期間で交代した理由を教科書や資料を用いてまとめさせる。

科目（講座名）	数学Ⅱ	3単位	学校必履修
教科書	数学Ⅱ Standard（東京書籍）		
副教材	STAGE 数学Ⅱ（東京書籍）		

学習の目標

式と証明、複素数と方程式、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数及び微分・積分の考え方について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

授業内容

第1章 方程式・式と証明	1節. 整式・分数式の計算	2節. 2次方程式
	3節. 高次方程式	4節. 式と証明
第2章 図形と方程式	1節. 点と直線	2節. 円
		3節. 軌跡と領域
第3章 三角関数	1節. 三角関数	2節. 加法定理
第4章 指数関数・対数関数	1節. 指数関数	2節. 対数関数
第5章 微分と積分	1節. 微分係数と導関数	2節. 導関数の応用
	3節. 積分	

学習方法

習熟度別のクラス展開をし、生徒の理解に合わせて授業を行っていく。
「例」や「例題」の解説、「問」や各節末の「Training」及び各章末の「Level Up」などで、問題演習を行い、学習事項を確認する。また、副教材、プリント等で補足の学習を行う。

評価の観点

関心・意欲・態度	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方の良さを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。
数学的な見方や考え方	数学的活動を通して、式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。
表現・処理	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分において、事象を数学的にとらえ、表現を処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決する。
知識・理解	式と証明・高次方程式、図形と方程式、いろいろな関数及び微分・積分における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。

評価方法

年5回の定期考査を中心に、課題テスト、課題等の提出状況及びその内容、日頃の学習態度等を年間を通して総合的に判断し、評価する。

年間計画

学期	月	配当 時間	単元	学習内容	学習上の留意点
1	6	13	1章 方程式・ 式と証明	3節 高次方程式 2. 簡単な高次方程式 4節 式と証明 1. 恒等式 2. 不等式の証明	因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。 等式や不等式を証明することの意味や方法について学ぶことにより、数学的な考え方や論理的思考力を養い、式と証明についての理解を深める。
	7	14	2章 図形と方程式	1節 点と直線 1. 直線上の点の座標 2. 平面上の点の座標 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係 2節 円 1. 円の方程式 2. 円と直線 3. 2つの円の位置関係 3節 軌跡と領域 1. 軌跡とその方程式 2. 不等式の表す領域 3. 連立不等式の表す領域	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に考察し処理するとともに、その有用性を認識し、いろいろな図形の考察に活用できるようにする。
2	9	24	3章 三角関数	1節 三角関数 1. 一般角 2. 弧度法 3. 三角関数 4. 三角関数の性質 5. 三角関数のグラフ 6. 三角関数を含む方程式・不等式 2節 加法定理 1. 加法定理 2. 加法定理の応用 3. 三角関数の合成	三角関数について理解し、関数についての理解を深め、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする
	10				
	11	20	4章 指数関数・ 対数関数	1節 指数関数 1. 整数の指数 2. 累乗根 3. 有理数の指数 4. 指数関数とそのグラフ 2節 対数関数 1. 対数とその性質 2. 対数関数とそのグラフ 3. 常用対数	指数関数及び対数関数について理解し、それらを具体的な事象の考察に活用できるようにする。
	12				

3	1 2 3	26	5章 微分と積分	<p>1節 微分係数と導関数</p> <p>1. 平均変化率 2. 微分係数 3. 導関数 4. 導関数の計算</p> <p>2節 導関数の応用</p> <p>1. 接線の方程式 2. 関数の増減 3. 関数の極大・極小 4. 関数の最大・最小 5. 方程式・不等式への応用</p> <p>3節 積分</p> <p>1. 不定積分 2. 定積分 3. 定積分と面積</p>	<p>具体的な事象の考察を通して微分・積分法の考えを理解し、それを用いて関数の値の変化や面積を求めることができるようにする。</p>
---	-----------------------------	----	-------------	--	--